

歴史  
参加

# 生きた歴史、盆踊りの世界！

## 浴衣着てさあ出かけよう

盆踊りは、真夏を彩るトラディショナル・エンターテインメント。しかも、その町や村の歴史と文化、日本人のルーツを探ることもできる。全国各地の盆踊りを体験してきた、柳田高也さんと石光真吾さん（WEBサイト「盆踊りの世界」の運営者）が誘う「盆踊りの世界」。

### 「くじょうおど 郡上踊り」で盆踊りの世界にはまった

WEBサイト「盆踊りの世界」には、全国各地の盆踊りガイドやその歴史、楽しみ方に関する情報が盛りだくさん。サイトを運営する柳田さん、石光さんらは、お盆休みに各地の盆踊り大会をハシゴし、実際に踊りに参加しながら、盆踊りにまつわる文化や歴史に関する情報を集めている。

彼らが「盆踊り」の魅力にはまったのは、旅行で訪ねた郡上八幡で「郡上踊り」に参加してからのこと。

「ものすごく間近で踊っていて、すぐの中に引き込まれました」と石光さんは笑う。「誘い方がとっても上手なんです。それまで踊りなんてまったくやったことがない私でも、存分に楽しむことができました」

江戸時代、士農工商の融和を図ることを目的に始められた「郡上踊り」は、その精神を今に受け継ぎ、誰でも踊りの輪に加わることができる。音楽はもちろん、生・三味線、お囃子に合わせ、古くから受け継がれてきた民謡が歌われ、それに合わせて踊りの輪ができる。踊りはお年寄りでも楽しめるスローなものから、かなり激しいものまで、約10種類。すべて、郡上オリジナルナンバーだ。8月13日〜16日のお盆の期

間、人々は徹夜で踊り明かす。郡上八幡の古くしつとりした町並みの中で踊る「郡上踊り」は何とも美しく幻想的。史跡を訪ねたり、歴史書を読むのが好きという柳田さんは、その魅力を次のように話す。「古い建物や古文書にも歴史を感じるけれど、それはある意味止まっているもの。でも、盆踊りには、生きた歴史を感じるんです。何百年も前から人々の身体や五感を通して伝わってきたものであり、今もなお変

化し続けているものなんです」  
地域ごとに、世代を超えて伝えられてきた盆踊りだが、今は後継者不足が深刻。多くの伝統的盆踊りが継承の危機にあるという。

### 「哀愁漂う新野盆踊り 秋が勝って夏が去る、踊り神送り」

そんな中、古典的な盆踊りのかたちを色濃く残している踊りに、天竜川流域の阿南町新野に伝わる「新野盆踊り」がある。これも、「郡上踊り」同様、お盆の間の三日三晩、徹夜で踊り続ける。踊りは全7種類。囃子を使わず、音頭（肉声）だけで踊るのも特徴だ。「新野盆踊り」のクライマックスが、最後の夜から明け方にかけて行われる「踊り神送り」です

「踊り神送り」の日には、新盆を迎える家々から、切子灯籠と呼ばれる灯籠が持ち寄られる。それらを円形に並べ、そのまわりで家族や地域の人たちが踊る。踊れない人々もその様子をそつと見守っている。

「その村で上くなった人を偲んで皆で踊るといって感じでしょうか。昔、新盆の家の庭先で、親類縁者や村人が集まって、精霊を慰める踊りをしてまわったというのが起源のようです」（柳



阿波踊り（徳島県徳島市）



新野盆踊り（長野県阿南町）



郡上踊り（岐阜県郡上市）



おわら風の盆（富山県八尾町）



**白石踊り (岡山県岡山市)**

岡山県岡山市の沖合12キロ、瀬戸内海笠岡諸島の一つ白石島に伝わる、古式ゆかしい盆踊り。



**津和野盆踊り (鳥取県津和野町)**

踊り子の黒頭巾・白装束が、大変印象的。鳥根県無形文化財。



**郡上踊り (岐阜県郡上市)**

日本三大民謡踊り (阿波踊り、花笠踊り、郡上踊り) の一つで、代表的な盆踊り。



**おわら風の盆 (富山県富山市/糸川)**

目深な編笠の可憐な踊り子、独特の哀調を帯びたおわら節に胡弓が魅力的。

**新野盆踊り (長野県新野町)**

「踊り神送り」では、踊り続けようとする若者たちと、それを押しつけて進む切り子灯籠がせめぎ合う。



**阿波踊り (徳島県徳島市)**

「踊る阿呆に見る阿呆、同じアホなら踊らなソソソ」はあまりにも有名。

**流し節正調河内音頭 (大阪府八尾市)**

この音頭は、室町時代(南北朝時代)の常光寺の再建時に歌われた木遣り歌がもとという言い伝えがある。

特徴は、神秘的で不思議に艶っぽい「彦三重巾」と、先祖伝来の美しい「端縫い」衣装。

**世帯工イサー (沖縄県名護市)**

躍動的な手振り足さばき、「イヤササ、ハイヤ」の掛け合い、四つ竹(四片の竹からなる楽器)や扇のパフォーマンスとして鳥唄の美しい融合。



**田島盆踊り (東京都中央区)**

幕府のきびしい治安維持政策の下、東京中心部にたった一つだけ伝承を許された古い盆踊り。



1954年に高知に誕生した“よさこい”は盆踊りではないけれど、いまや、よさこいを踊るチームが全国各地に生まれている。そんなチームの一つ、横浜を拠点に活動する「祭・WAIWAIよこはま」の手塚真由さんの“よさこい”とは？

「皆が主役になれる踊りなんです」と“よさこい”の魅力を語るのは、手塚真由さん(26歳)。横浜を拠点に活動する「祭・WAIWAIよこはま」で、熱く踊っている。

大学時代、芸術スポーツコースでダンスを専攻していた真由さんは、その経験を生かし、踊りの構成と振り付けを担当している。メンバーは全部で約80人。彼女のほか教人を除けば、踊りはまったく初めてという人ばかりだ。

「幼稚園児から、高校生、大学生、社会人、主婦、60代の女性まで、年齢層は実に幅広い。激しい動きもあるので、体力的に大変な部分もありますが、練習さえすれば、誰でも踊れるようになりますよ」

各地で開かれるよさこい祭りでは、賞が競われることも多い。よさこいには鳴子を持って踊るということ以外、大きな規定やルールはないため、チームごとの個性やパフォーマンスが決め手となる。

「毎年チームのテーマを決め、それに合わせた曲を作曲し、踊りの構成、振り付けを考えて練習に入ります。衣装制作や舞台装飾などもすべて自分たちで行うので、とにかく大変ですが、その充実感は何とも言えません」

ほぼ毎週末、横浜市内の公園でみっちり練習する。合宿も行うほどの“体育会系”。チームの結束も固い。「たとえ技術が及ばなくても、皆で心一つにして踊ろうって、それだけは決めているんです。本番、いつもなかなか合わない動きがピタッと合ったりする。そのゾクッとするくらいの一休感がたまらないんです」

今年の「祭・WAIWAIよこはま」のテーマは、<sup>ワカ</sup>風。風に桜が舞い上がる様子を艶やかに、勢よく表現するそうだ。約1ヶ月ほどあれば、ほぼ基本はマスターできるという。

「思いっきり汗かいて、声を出すと人間絶対、元気になります。ぜひ私達と一緒に踊りませんか」

④ (飯島裕子)

<祭・WAIWAIよこはま>1998年にヨコハマカーニバル「はまこい踊り」が始まったことを機に結成。よさこいチームとしては80人と小規模ながら、湘南よさこい祭大賞、FM横浜賞(はまこい)、元気ファイト賞(木更津舞臺)、ミニマム大賞(千葉よさこい)ほか受賞多数。今年もヨコハマカーニバル、池袋ふくろ祭り、お台場ドリーム、北海道YOSAKOIソーランなどに出場する。

<http://www.15.tok2.com/home/waiwaiyokohama/index.htm>

よさこいゾクッとするくらいの一休感

田さん  
明け方が近づくと、子どもたちが切り子灯籠を持って大人たちとともに、村はずれに向かう。もっと踊りたいという若者たちがそれを阻止しようと踊りで応戦する(写真参照)。

「一切子灯籠の集団は、秋を表現していて、まだ、夏を楽しみたい若者の集団とせめぎ合いを演じているんですが、それがとても感動的で神秘的なんです。最後には、秋が勝って、夏は終わりを告げるのですが、季節感と日本の情緒に溢れた光景なんですよ」(柳田さん)

知れば知るほど奥が深い盆踊りの世界。柳田さんたちは、この3年間で約17ヶ所の地域をめぐる、盆踊りを体験

してきた。

「地域の人と一緒に踊るだけで、親近感、一体感がグッと深まってくる。よそ者を受け入れる懐の深い人に多く出会い、本当にいい体験をさせてもらっています」(石光さん)

阿波踊りの俄連のように、飛び入り参加できる工夫をしているお祭りもある。見て楽しむ、踊って楽しむ、町や村の歴史や文化を知って、日本人のルーツを探ることもできる……いろいろな楽しみ方がある盆踊り、まずはこの夏、踊りの輪に飛び込んでみてはどうだろう！

その際、できれば浴衣と下駄を身につけたい。郡上八幡では、浴衣のレン



柳田尚也さん



石光真吾さん

② 盆踊りの世界」サイト

1997年の郡上踊りとのお出合いをきっかけに、毎年夏は全国各地の盆踊りを訪ね歩いている。03年、ホームページ「盆踊りの世界」を開設。メンバーは本文の2名と英語版担当の新家剛さん。内容は全国盆踊りガイド、盆踊りの楽しみ方など、さまざまな角度から盆踊りの魅力を紹介している。

③ (飯島裕子)

「それから最後に一言だけ。盆踊りは地域イベントなので、その土地や人々への配慮も忘れずに。特に駐車場がない場合が多いので、移動はスローに電車がお勧めです」(柳田さん)

